

# 学校だより



平成28年11月30日

横浜市立二谷小学校  
校長 渡邊 文子

## ～笑顔の力～

学校長 渡邊文子

よく行くパン屋さんに笑顔の素敵な店員さんがいます。いつ行ってもにこやかに迎えてくださるので、とてもよい気持ちになります。そのような気持ちになるのは私だけではないらしく、先日はレジに並んだ女性が、「まあ、今日はお会いできてよかったわ。」とその方に声をかけている光景をみかけました。自然な温かい笑顔のファンは私だけではないようです。

「ほほえむ魚」(ジミー作・絵)という絵本には、自分にだけ微笑んでくれる魚との出会いを通して変わっていく主人公のことが描かれています。温かい笑顔、まなざしは人の心に染み入り、相手が子どもであれば豊かな感性を育てていくものです。

ところが、最近は電子メディアの発達で乳幼児の時代からゲームやアニメにふれる時間が多くなり、親子の双方向のまなざしが少なくなっているのだそうです。授乳中のスマホも然りです。「子どもが大人の顔を見る時間が減ってしまうと、まなざしががち合わないだけでなく、『笑顔、感情、言葉』が獲得できなくなっても、不思議ではありません。」と小児科医である田澤雄作さんは書いています。(「メディアにむしばまれる子どもたち」 教文館)

二谷小学校には、すてきな笑顔の子どもたちがたくさんいます。「おはようございます」と浣刺とした表情で挨拶をしてくれる子どもたちに出会うと、こちらも元気になってきます。気持ちよく起き、朝ごはんをしっかりと食べ、きっと家の方とも「行って来ます。」「行ってらっしゃい。」と笑顔で挨拶をかわしてきたのでしょう。

学級で学習していて、うまく意見が言えなくて困った時、友達や教師の優しいまなざしがあれば、安心できます。思うようにいかなくて気持ちが沈んでいる時、家族の「お帰り。」の笑顔にほっとした経験をお持ちの方は多いでしょう。笑顔の力は偉大です。

秋も深まり、日差しが柔らかく感じられる季節。温かい笑顔、まなざしを交し合う生活を大切にしたいものだと思います。